

岡山県の地震

令和7年(2025年)7月

目次

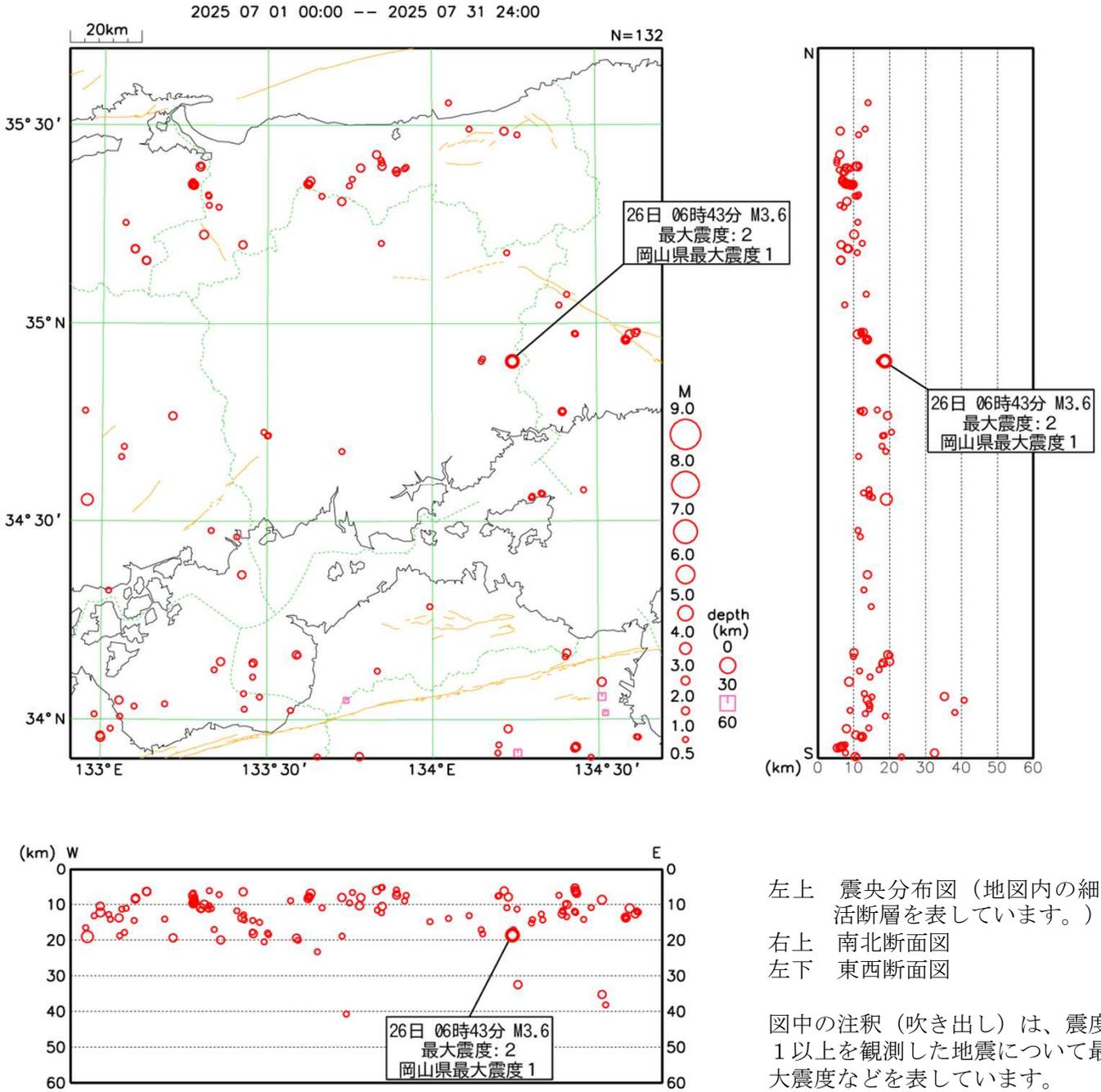
○岡山県及びその周辺の地震活動（7月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 3
○地震防災メモ No.235	
毎年8月26日は「火山防災の日」	… 4

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(7月)

震央分布図及び断面図



左上 震央分布図（地図内の細線は活断層を表しています。）

右上 南北断面図

左下 東西断面図

図中の注釈（吹き出し）は、震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

概況

7月の概況

- 岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は7月中に2回（前月：1回）あり、そのうち震央が上図の範囲内の地震は1回、範囲外の地震は1回でした。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(7月)

2025年07月26日06時43分	岡山県南部	34° 54.3' N 134° 14.6' E	19km	M3.6
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 1: 津山市林田, 津山市新野東*, 勝央町勝間田*, 岡山美咲町久木*, 美作市尾谷美作市福本*, 美作市美来*, 和気町尺所*, 和気町矢田*, 赤磐市周匝*, 岡山東区瀬戸町*			

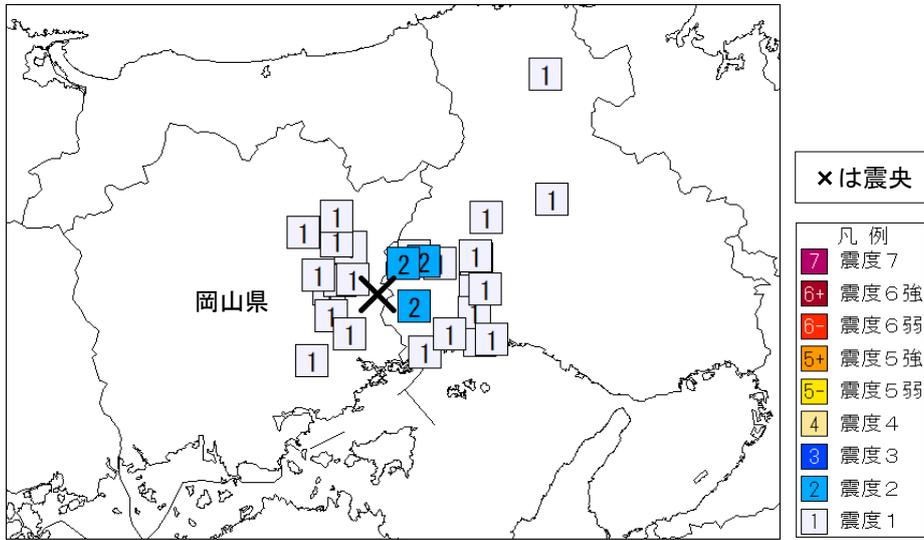
2025年07月30日08時24分	カムチャツカ半島付近	52° 30.7' N 160° 19.4' E	35km	M8.8
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 1: 真庭市蒜山下福田*, 真庭市蒜山上福田*			

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
- 2 地名に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。
- 3 7月30日のカムチャツカ半島付近の地震の震源要素は、マグニチュードが気象庁の算出したモーメントマグニチュード(断層のずれの規模をもとにして計算したマグニチュード)、その他が米国地質調査所(USGS)によるものです。

岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(7月)

2025年 7月26日06時43分 岡山県南部の地震

岡山県及び周辺観測点の震度分布

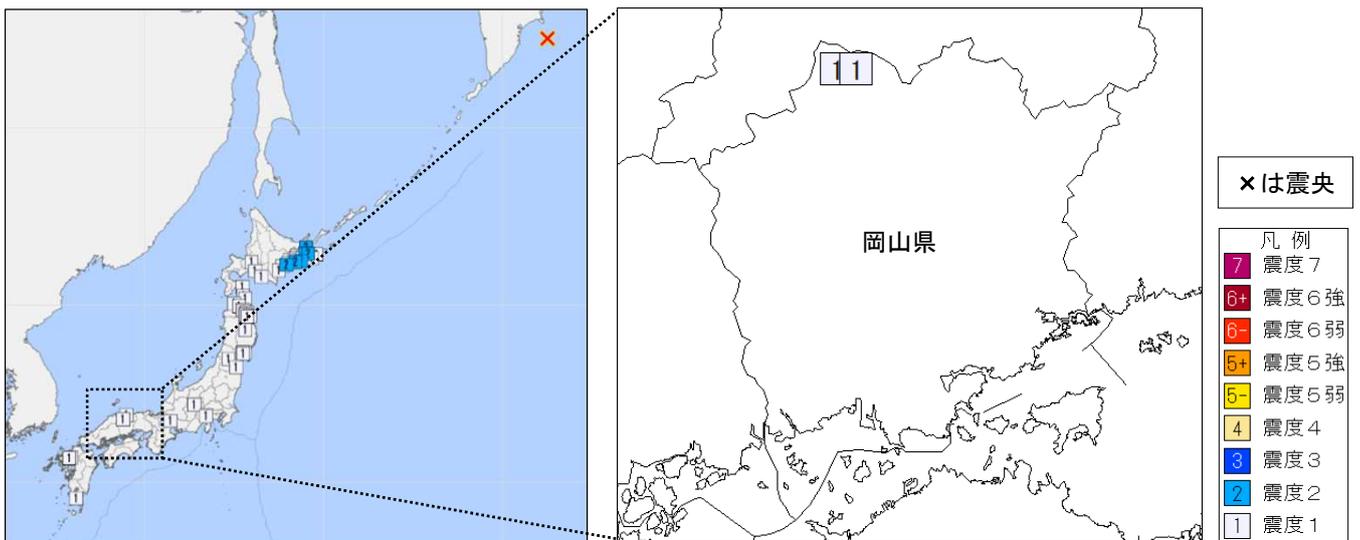


<地震の概要>

26日06時43分 岡山県南部の地震（深さ19km、M3.6）により、兵庫県上郡町・佐用町で震度2を観測したほか、兵庫県、岡山県で震度1を観測しました。岡山県では、津山市、勝央町、美咲町、美作市、和気町、赤磐市、岡山市で震度1を観測しました。

2025年 7月30日08時24分 カムチャツカ半島付近の地震

岡山県及び全国の震度分布



<地震の概要>

30日08時24分 カムチャツカ半島付近の地震（深さ35km、M8.8）により、北海道釧路市・釧路町・厚岸町・標津町・別海町で震度2を観測したほか、北海道・東北・東海・甲信越・中国・九州地方にかけて震度1を観測しました。岡山県では、真庭市で震度1を観測しました。

この地震により、気象庁は、北海道から沖縄県までの広い沿岸に津波警報と津波注意報を発表し、津波を観測しました。岡山県にも津波注意報を発表しましたが、津波の観測はありませんでした。なお、岡山県への津波注意報の発表は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以来でした。

毎年8月26日は「火山防災の日」

夏から秋にかけては登山シーズンで、火山を訪れる方も多いと思います。
毎年8月26日は「火山防災の日」です。「火山防災の日」をきっかけに、改めて、火山の魅力・恩恵やその危険性を正しく理解し、火山災害に備えましょう。



火山の精 ほるけん

○火山防災の日の由来

8月26日を火山防災の日と制定したのは、明治44年8月26日に、浅間山に日本で最初の火山観測所が設置され、器械を用いた近代的な観測が始まったことに由来しています。

浅間山は、今年の大河ドラマ「べらぼう」でも描かれた天明の噴火(1783年)など、歴史的に大噴火とそれに伴う災害が繰り返されてきたので、被害軽減を目指した観測が重要とされました。

○火山の恵み

火山活動によってできる火口湖や溶岩ドームなど様々な地形や、立ち上る噴気活動や、頂上から見られる雄大な景色などは大変魅力的です。また、周辺に温泉が湧いている火山もあります。そのようなことから国立公園など著名な観光地に火山が含まれていることが多いのです。

○火山災害

一方で、火山噴火に伴い大きな被害が発生することがあります。

火山災害の要因となる主な火山現象には、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流、溶岩流、小さな噴石や火山灰、火山ガス等があります(右図)。また、火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに大雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。

中でも、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、避難までの時間的猶予がほとんどなく、危険性が高いため、防災対策上重要度の高い火山現象とされています。死者・行方不明者合わせて63名の被害をもたらした平成24年の御嶽山噴火は記憶に新しいと思います。



※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません。

○火山災害から身を守る

残念ながら今の科学技術で、噴火を正確に予知することはできません。火山でのレジャーを楽しむにあたっては、万が一に備え、以下の点を心がけましょう。

- ✓ 「火山防災マップ」を見て、「噴火警戒レベル」に対応する危険な場所を確認しておきましょう。
- ✓ あらかじめ避難する場所や、そこまでの道順を確認しておきましょう。
- ✓ 気象庁の発表する「噴火警報」などの情報や、「噴火警戒レベル」に注意しましょう。
- ✓ 噴火のおそれがある場合には、危険な地域では事前の避難が必要です。地元の市町村の指示があった場合には、それに従いましょう。

○中国地方の火山

中国地方には、三瓶山(島根県)と阿武火山群(山口県)の2つの活火山があります。火山防災の日を契機に訪れてみてはいかがでしょうか。なお、蒜山や岡山県の方々にもなじみの深い大山(鳥取県)は火山ではありますが、活動した年代が古く活火山には分類されていません。

(参考)気象庁:「火山防災の日」特設サイト

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/kazanbosai/index.html>